

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 25 年 1 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 24 年 10 月～12 月期の実績および平成 25 年 1 月～3 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	17 社	56.7%
水産業部会	30 社	15 社	50.0%
機械工業部会	30 社	14 社	48.7%
建設業部会	30 社	21 社	70.0%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	20 社	66.7%
合 計	150 社	87 件	58.0%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概況

－業況は横ばい・来期はやや悪化見込み－

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成24年10月～12月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比で△27.6**と前回調査時の△30.3より**2.7ポイント改善**しました。全業種のDI値を見ると、水産業の業況改善と建設業の稼働期による改善の効果、観光サービス業諸業の業況回復により全体的に改善傾向になりましたが、他の業種は-40ポイント前後と低調のままであり、次期見通の数字を見てもほぼ横ばいの予想で、市内経済を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いていくと思われま

す。部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前年DI値△42.9→今期△47.1]、水産業[前年DI値△7.1→今期△6.7]、機械工業[前年DI値△47.4→今期△35.7]、建設業[前年DI値△10.0→今期△28.6]、観光・サービス・諸業[前年DI値△41.2→今期△20.0]となりました。今回の調査では、水産業が改善しており、鮭が過去最高の漁獲実績だったことや活カニ輸入量が昨年を上回る水準だったことなどが考えられます。また観光・サービス業諸業もやや改善しているが、少しずつ回復してきている実感が窺えます。他の業種は、引き続き業況悪化が続いている状況です。

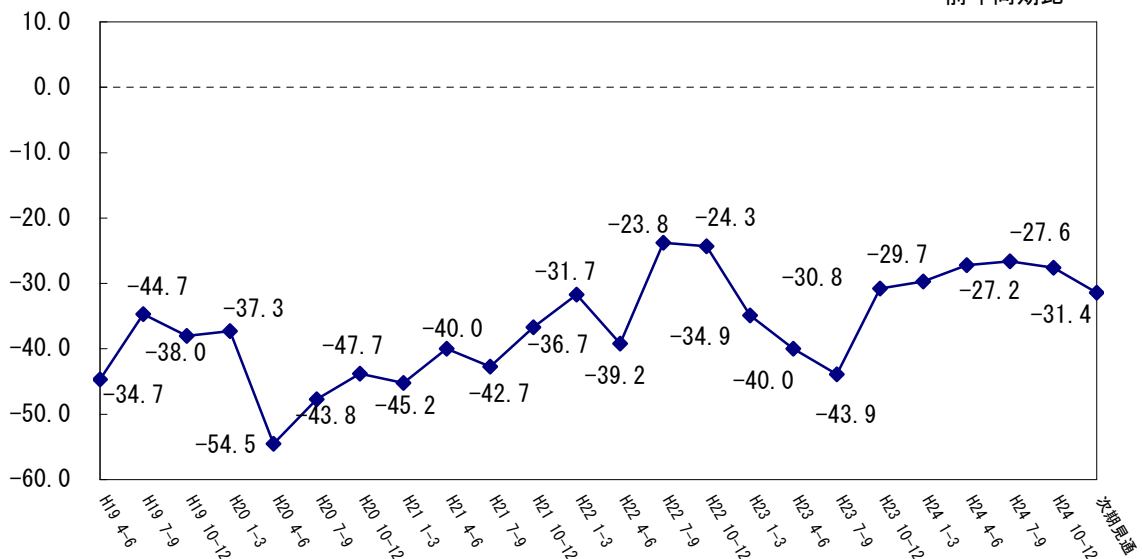
次期(平成25年1月～3月)については、全体では今期と比べて**業況判断DIが3.8ポイント悪化(次期見通し△31.4)**するとの予測となっております。商業・食品業および観光サービス諸業の業種において業況指数が-40ポイントを超えて悪化するとの見方が強まっており、年度の終わる3月まで内容の厳しい状況が続くものと思われま

業況推移

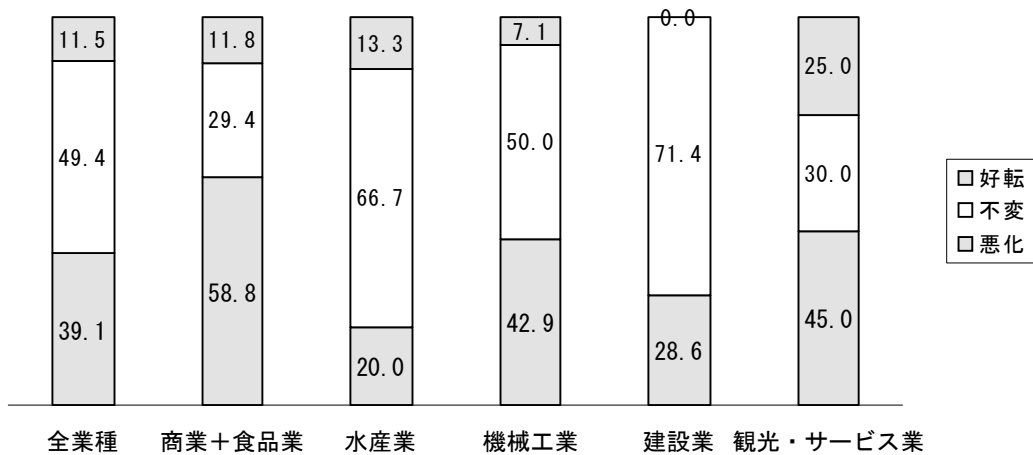
(全業種平均D・I)

(好転－悪化)

前年同期比



今期の業況（前年同期比）



全業種の経営上の問題点としては、「**需要の停滞**」「**原材料の不足**」「**材料等の仕入単価の上昇**」を訴える声が多く寄せられており、人口減の心配や燃料代等の高騰に対する不安を訴える声も増えています。

■部会別の動向

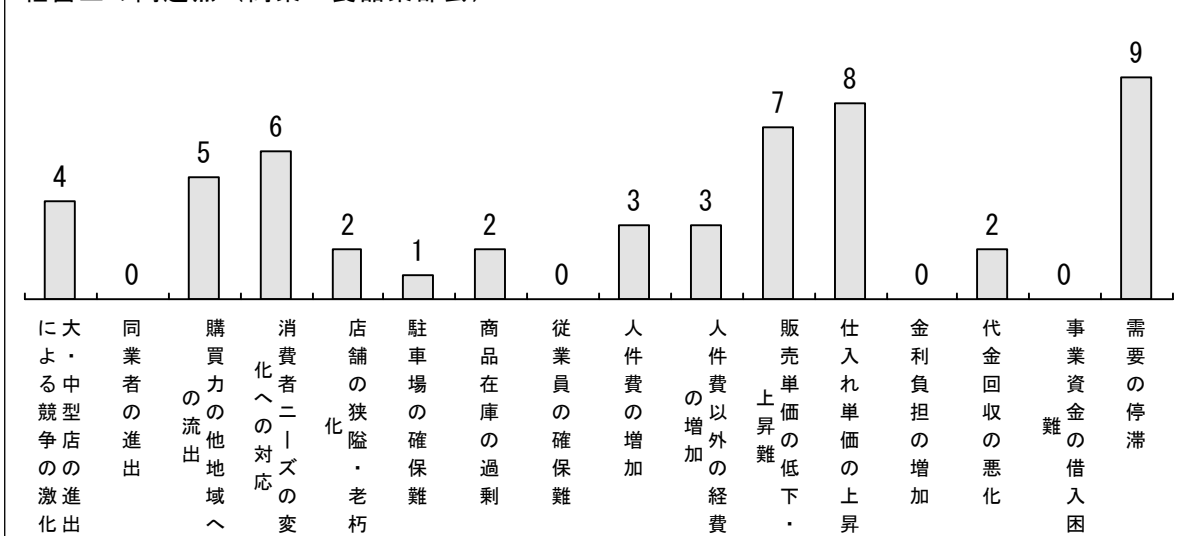
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 47.1$ （前年DI値 $\Delta 42.9$ 、来期見通し $\Delta 47.1$ ）〕

業況DI値（前年同期比）は、依然厳しい状況で推移しています。年末商戦に期待していたものの業況は横ばいという結果でした。次期見通しとしても、ほぼ横ばいの指数予想となっております。経営上の問題点としては「**需要の停滞**」「**仕入単価の上昇**」「**購買単価の低下・上昇難**」を訴える声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・客数の減少と客の高齢化。不景気によるディスカウント店への客の流出（小売）
- ・今冬は厳冬で気温の低い日が続いているため、燃料費がかさみ大変です。早く平年並みかそれよりも暖かい日が来るのが待ち遠しいところです。（小売）
- ・高校生（紋別高校）のアルバイトが禁止（就職の決まった3年生以外）されているようだが、従業員確保の他に、卒業後市外に流出しやすい状況をつくっているように感じます。（小売）

経営上の問題点（商業・食品業部会）

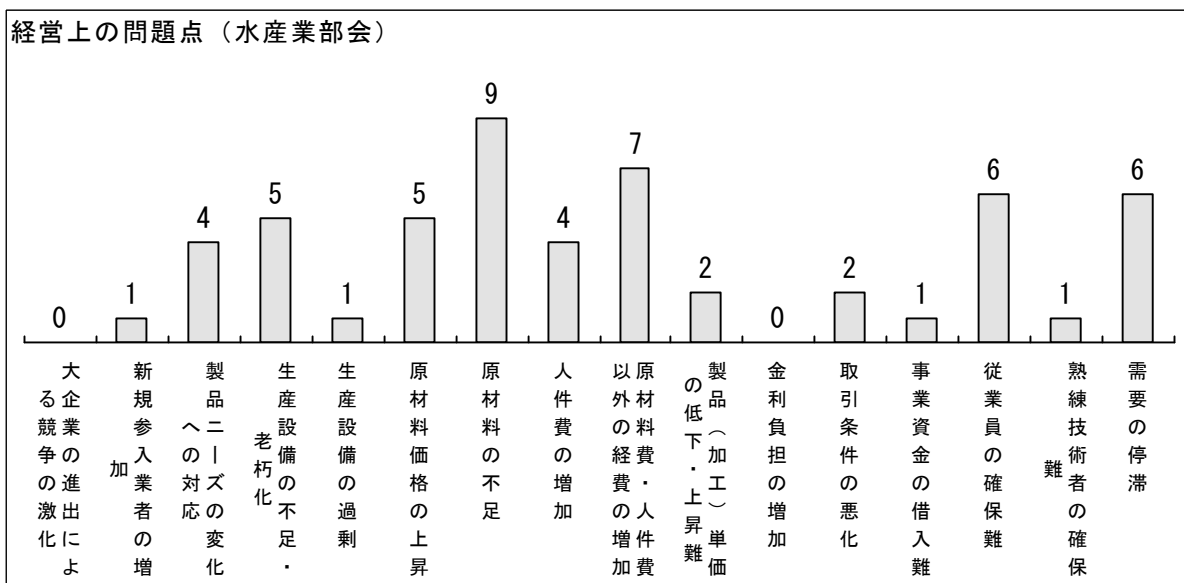


【水産業部会】 [業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 6.7$ （前年DI値 $\Delta 7.1$ 、来期見通し $\Delta 20.0$ ）]

業況判断DI値（前年同期比）は0.4ポイント改善しています。要因としては、鮭の漁獲実績が過去最高だったことや活カニ輸入量が4ヶ月連続昨年実績を上回るなど順調に推移したことが挙げられます。しかしながら期待していたイカの水揚げが時化続きで出漁が出来ず、昨年と比べ3億円減収だったことが響いている様です。また魚価の上昇に伴い、水産加工業者の仕入れ値の上昇による収益の悪化や原料不足の状態になるなど、厳しい面もありました。経営上の問題点としては「原材料の不足」「原材料費・人件費以外の経費の増加」を訴える声が多くなっており、来期の見通しは、流水到来する閑散期のため悪化するだろうとの見方が強くなっています。

《業界の問題点等》

- ・ 震災後の売上減少化傾向に歯止めがかからなく、消費者の購買意欲の低下と購入金額の少額化が目立っている。（購入単価が上がらない）（水産加工）



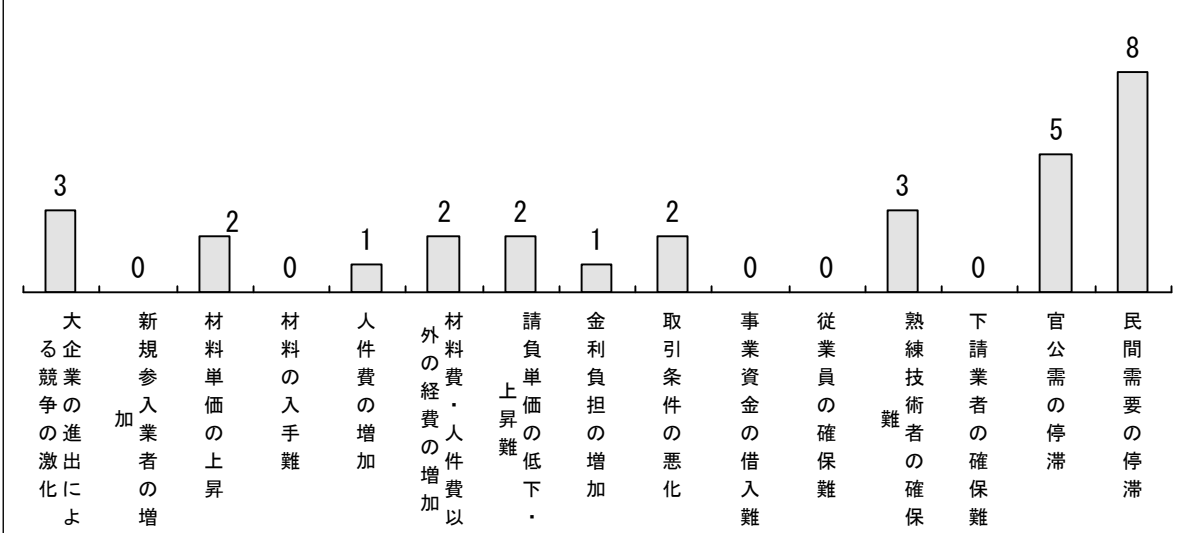
【機械工業部会】 [業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 35.7$ （前年DI値 $\Delta 47.4$ 、来期見通し $\Delta 28.6$ ）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前年比で11.7ポイントの改善ではありますが、業績内容は低いままの推移であり、依然として厳しい状況が続いています。来期業況見通しは $\Delta 28.6$ と若干改善予測ですが、来年4月の消費税率の変更を間近に控えた駆け込み需要や自動車取得税の廃止に向けた動きなど、今後の自動車業界の動きには今後注目していきたいところです。経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「官公需の停滞」を訴える声が多くなっており、

《業界の問題点等》

- ・ 全体的不景気に感じます。エンジンのようなトラブルは直しますが、ボディー的なものは少々なら直さずですね。年々仕事も減少気味に感じます。（自動車修理業）
- ・ 外国為替の動向（製造業）

経営上の問題点（機械・工業部会）



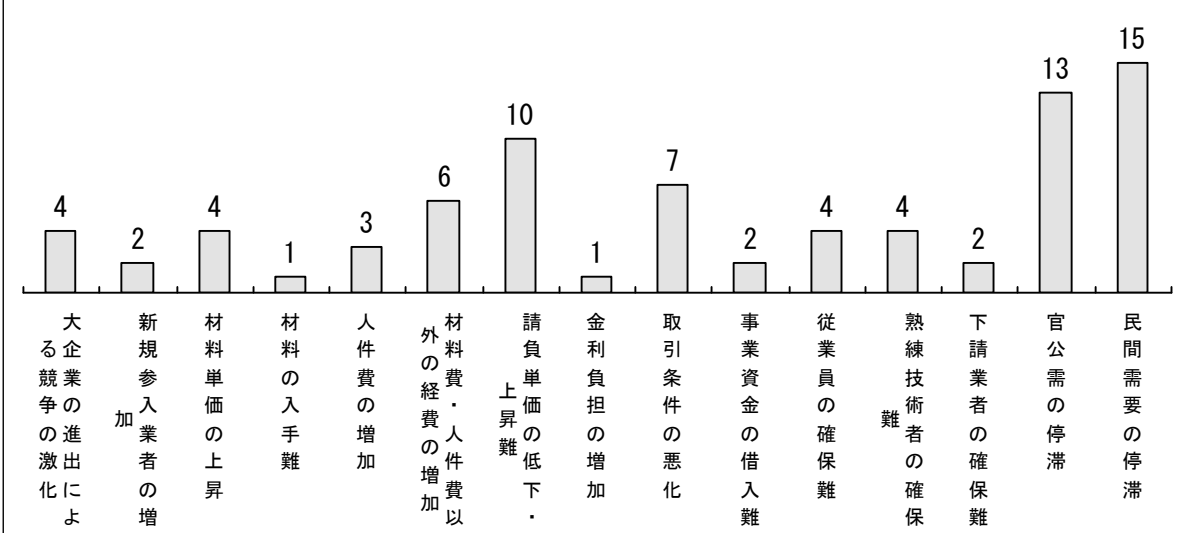
【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 28.6$ （前年DI値 $\Delta 10.0$ 、来期見通し $\Delta 19.0$ ）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年比18.6ポイント悪化しています。夏場の工事期が入り業況が良くなる場所ですが、昨年よりも悪化している状況だったと思われます。経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「官公需の停滞」「請負単価の低下・上昇難」を訴える声が多くなっており、来期は極端に仕事の少ない冬期を迎えることもあり、見通しとしてはほぼ横ばいだろうとの見方が強くなっています。今後の自民党政権による公共工事の増加に期待したいところです。

《業界の問題点等》

- ・①住宅ローンの審査が厳しく、若年層（低所得層）が住宅を取得するのが難しい。給与が減少しているのも原因。（→緩和が望まれる）
- ②職人が不足している。（高齢化とリストラ）→受注増加と育成（職訓校等）
- ③紋別等の地方は公共事業が主体なので、紋別市が対策を考えるべきです。（建設）

経営上の問題点（建設業部会）

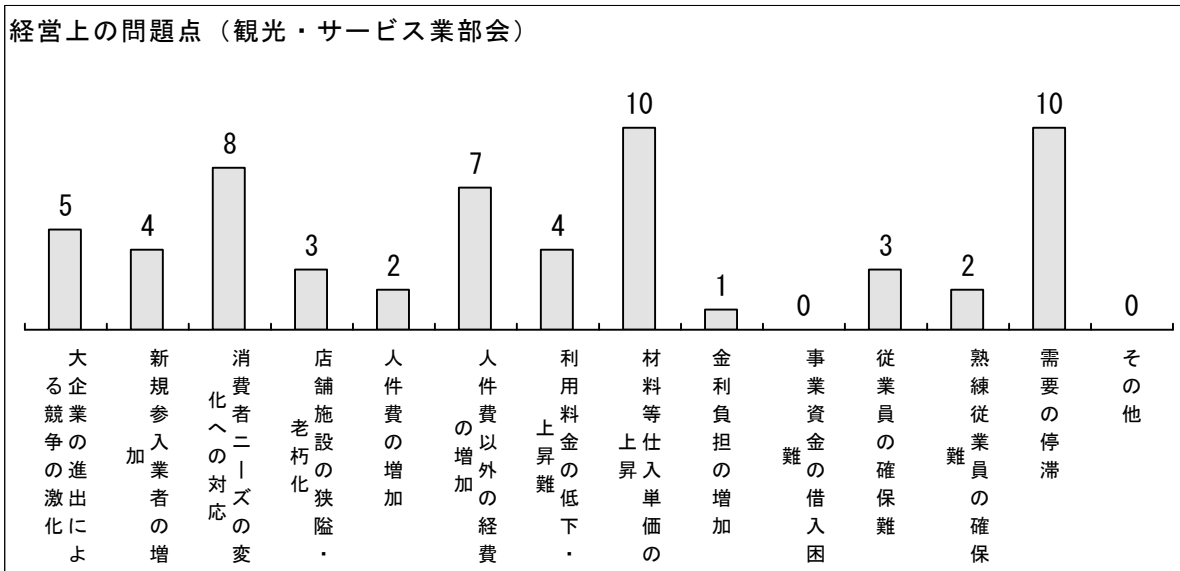


【観光・サービス部会】 [業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 20.0$ （前年DI値 $\Delta 41.2$ 、来期見通し $\Delta 42.1$ ）]

業況判断DI値（前年同期比）は前年よりも21.2ポイント改善していますが、今回の業況については、震災後の悪化した昨年との数字の比較であり、売上や経営内容が大幅に改善したという意見は伺っておりません。経営上の問題点としては、「需要の停滞」「材料等仕入単価の上昇」などを心配する声が多くなっております。来期の見通しは非常に良くない状態という予想ですが、本格的な流氷シーズン到来による観光客などの入り込みを期待したいところです。

《業界の問題点等》

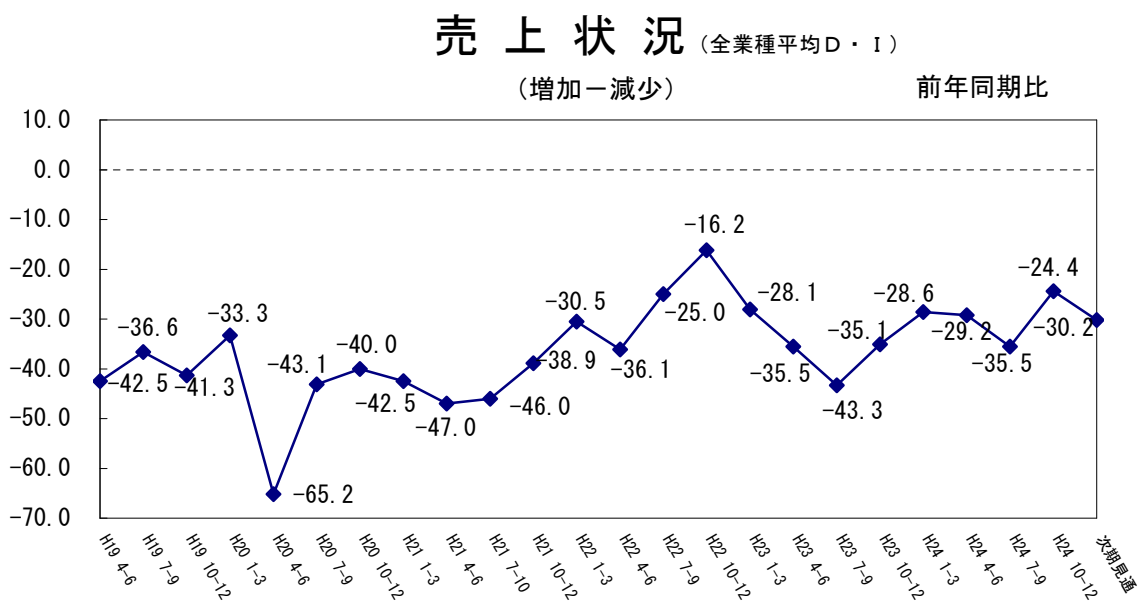
- ・何を重点として今後の経営をしていくのかははっきりしていない。（飲食業）
- ・節電と言われても、寒くて燃料代がかかる。（飲食業）
- ・予想以上の低温、積雪による葉物野菜の高騰、品薄で原価の上昇、除雪費用の増加で純利の減少。2月の流氷時期に向けて客数の増加に期待。（飲食業）
- ・もっとインターネットを活用した方が良いと思う。（飲食業）
- ・企業誘致の促進を図り、人口の増加を望みます。（運送業）
- ・やはり紋別の大目玉である流氷。2月イッパイ接岸祈るのみです。（飲食業）
- ・H24年介護保険料の改訂に伴い、利用料金も引き下げられ、年間で約120万円の減少となる。また、現在空室が4室あり、入居希望者がゼロの状況が3ヶ月続いており、月平均約140万円の減少が見受けられ、介護職員の確保についても大変苦勞している。（サービス業）



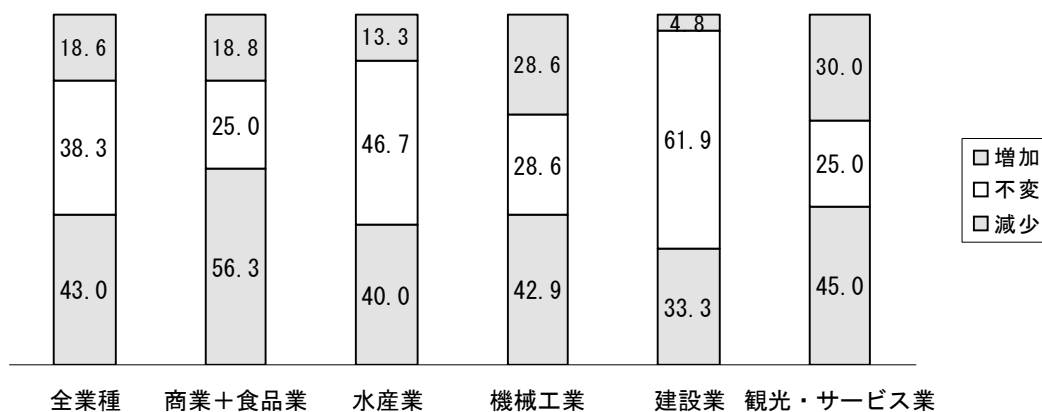
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 23 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の売上高）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均で DI 値 $\Delta 24.4$ 〔前回調査時（平成 24 年 7～9 月期 $\Delta 35.1$ ）より 10.7 ポイント改善〕 機械工業、観光サービス業・諸業が大きく改善。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年 $\Delta 38.1 \rightarrow \Delta 37.5$ 〕、水産業〔前年 $\Delta 28.6 \rightarrow \Delta 26.7$ 〕
 機械工業〔前年 $\Delta 57.9 \rightarrow \Delta 14.3$ 〕、建設業〔前年 $\Delta 10.0 \rightarrow \Delta 28.6$ 〕
 観光・サービス業・諸業〔前年 $\Delta 41.2 \rightarrow \Delta 15.0$ 〕

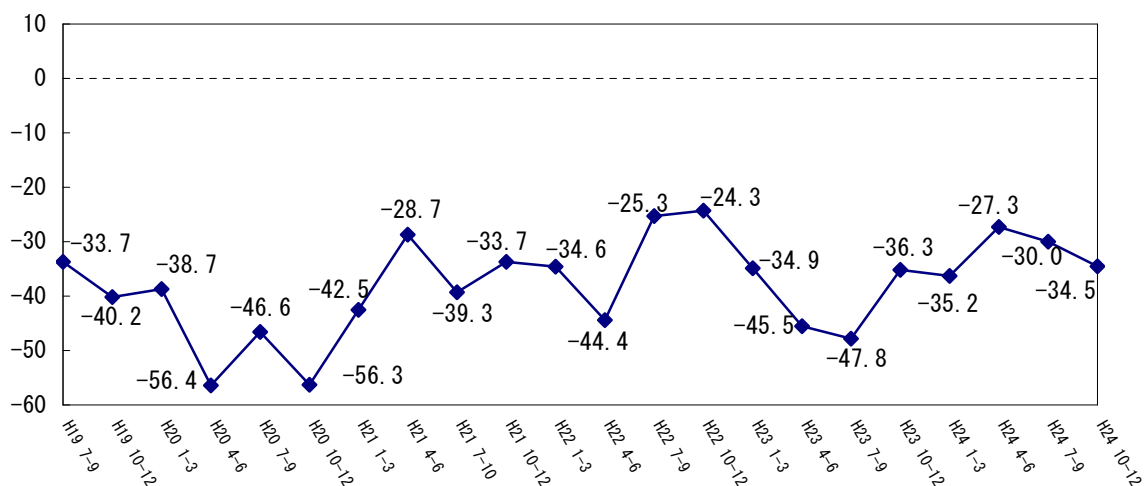
(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 23 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の採算水準）

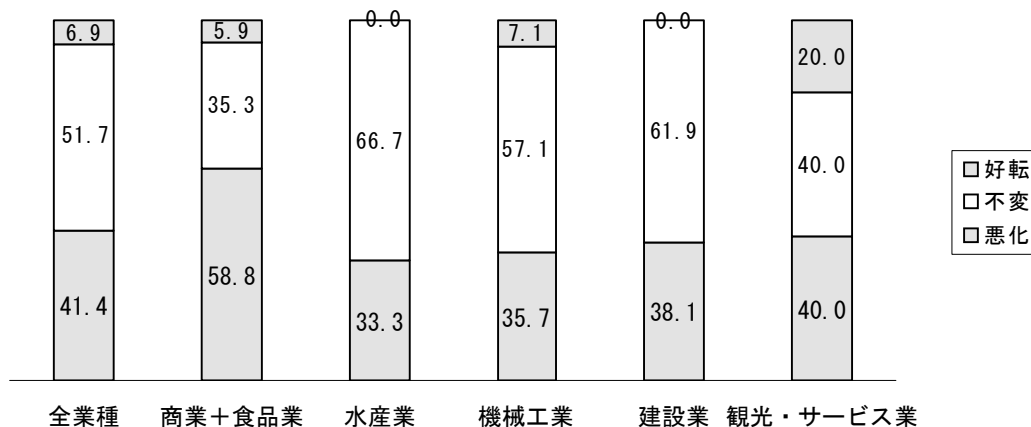
採算推移（全業種平均 D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



今期の採算（前年同期比）



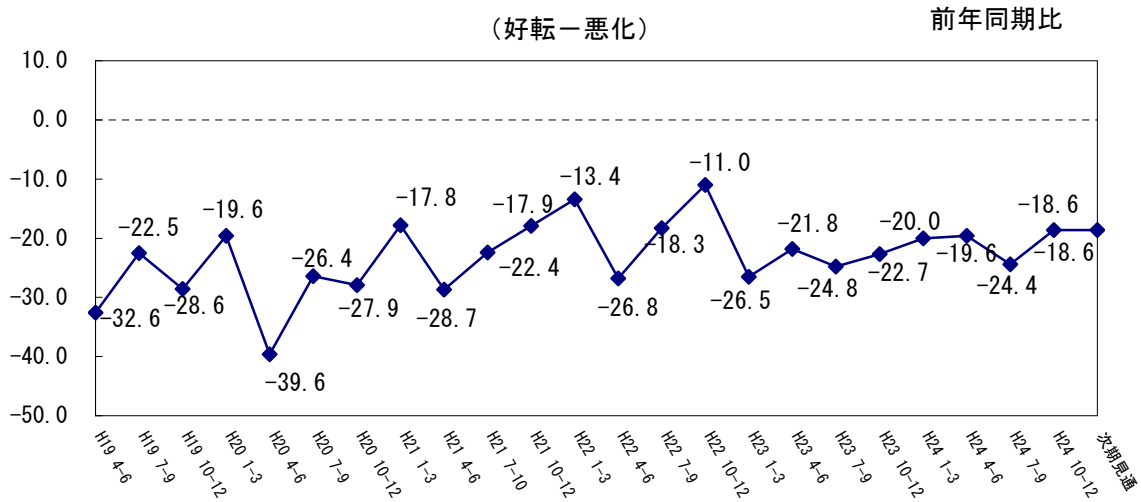
全業種平均でDI値△34.5〔前回調査時（平成 24 年 7～9 月期△35.2）より 0.7 ポイント改善〕
機械工業、観光サービス業・諸業が大きく改善。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年△42.9→△52.9〕、水産業〔前年△7.1→△33.3〕
機械工業〔前年△63.2→△28.6〕、建設業〔前年△10.0→△38.1〕
観光・サービス業諸業〔前年△47.1→△20.0〕

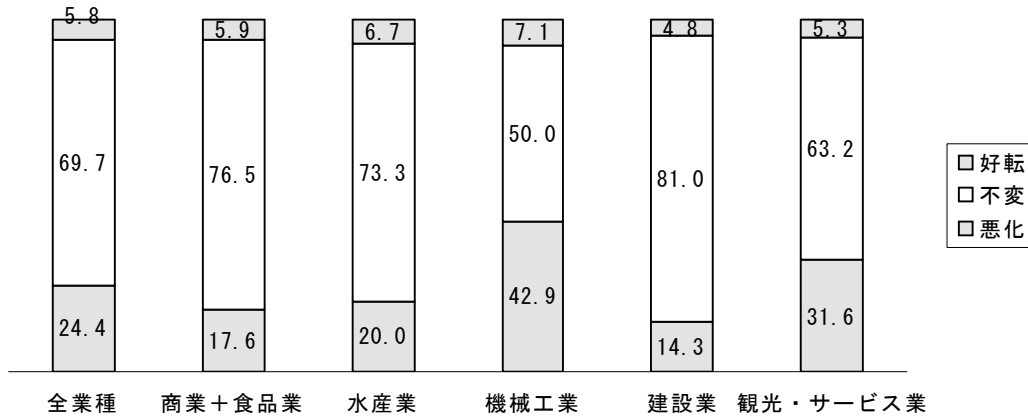
(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 23 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の資金繰り）

今期の資金繰り (全業種平均 D・I)



今期の資金繰り（前年同期比）

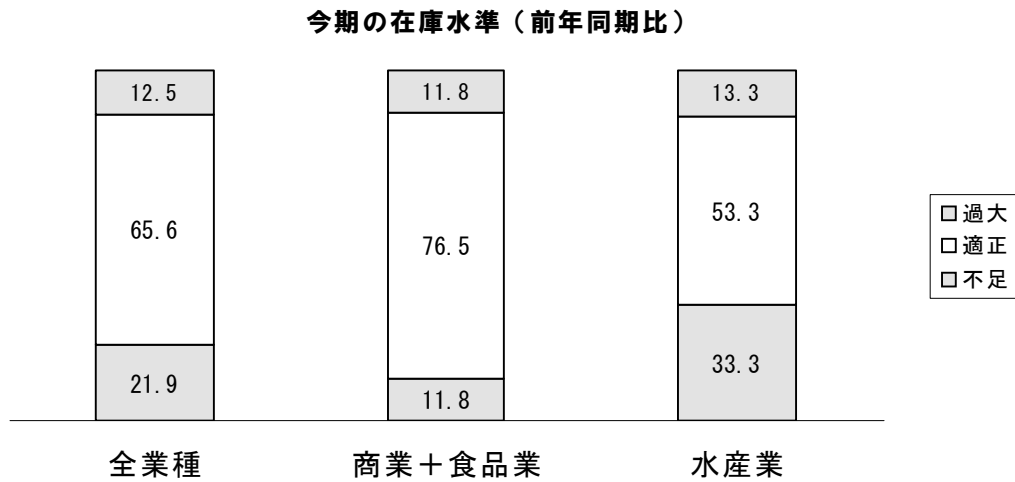


全業種平均で DI 値△18.6〔前回調査時（平成 24 年 7～9 月期△22.7）より 4.1 ポイント改善〕
水産業と観光・サービス業諸業が改善。

[部会別 DI 値] 商業・食品業〔前年△9.5→△11.8〕、水産業〔前年△28.6→△13.3〕
機械工業〔前年△22.2→△35.7〕、建設業〔前年△10.0→△9.5〕
観光・サービス業諸業〔前年△53.3→△26.3〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 23 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

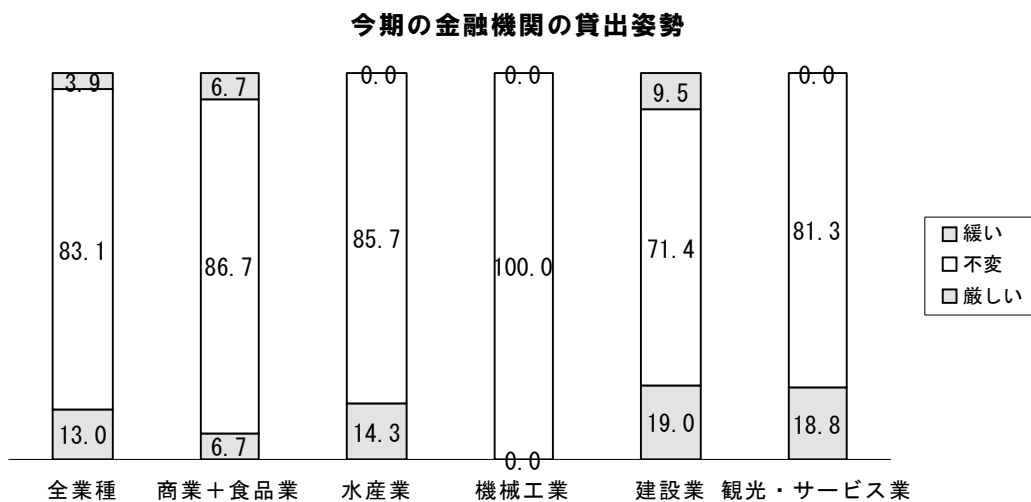


全業種平均でDI値 $\Delta 9.4$ 〔前回調査時（平成 24 年 7～9 月期 $\Delta 8.5$ ）より 0.9 ポイント減少〕

[部会別 DI 値] 商業・食品業〔前年 0.0 \rightarrow 0.0〕、水産業〔前年 $\Delta 21.4 \rightarrow \Delta 20.0$ 〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

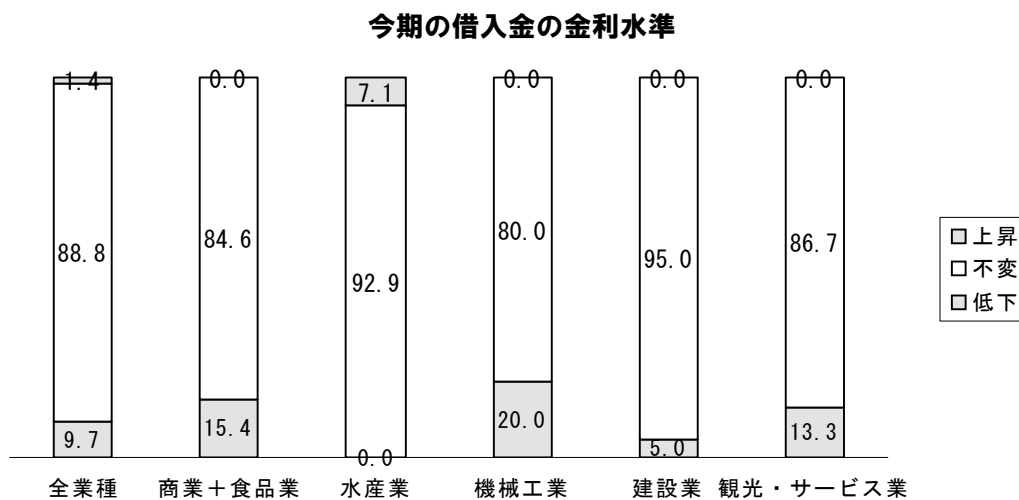
【前年同期比】（平成 23 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均で $\Delta 9.1$ ポイント。商業食品業 0.0 水産業 $\Delta 14.3$ 機械工業 0.0 建設業 $\Delta 9.5$ 観光サービス業諸業 $\Delta 18.8$ 。

(6) 今期の借入金の金利水準

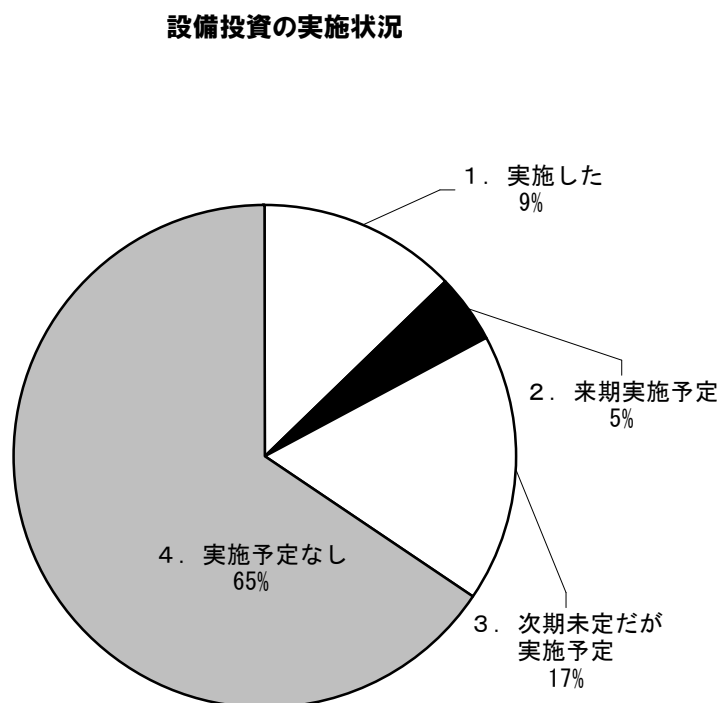
【前年同期比】（平成23年10月～12月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で $\Delta 8.3$ 。商業食品業 $\Delta 15.4$ 水産業 7.1 機械工業 $\Delta 20.0$ 建設業 $\Delta 5.0$ 観光サービス業諸業 $\Delta 13.3$ 。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

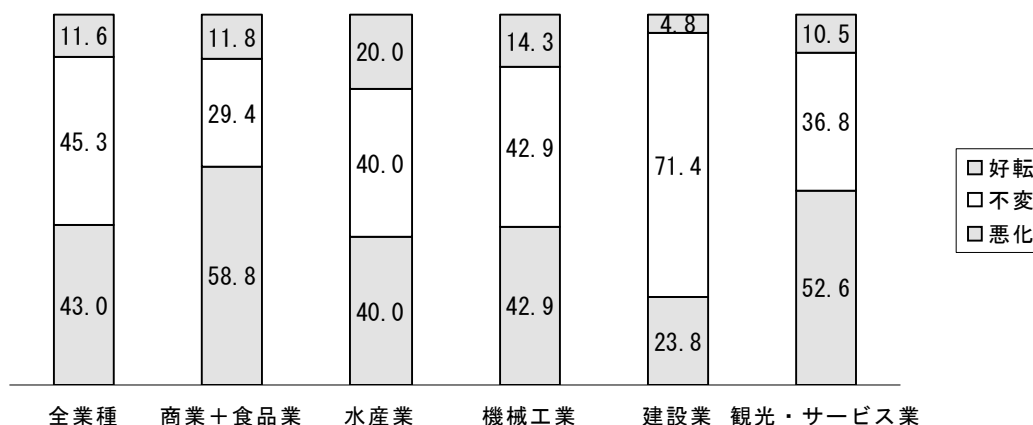


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成 24 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

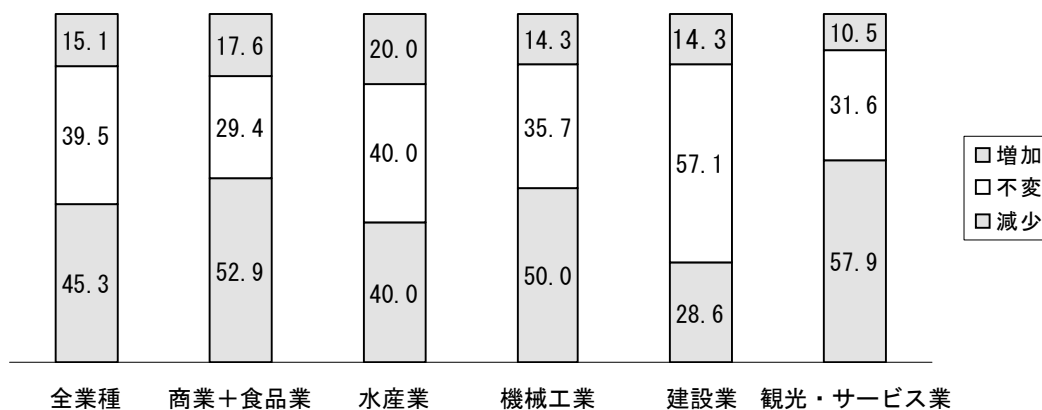


全業種平均 DI 値 $\Delta 31.4$ [今期の業況（前年同期比 $\Delta 27.6$ ）より 3.8 ポイント悪化の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 24 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

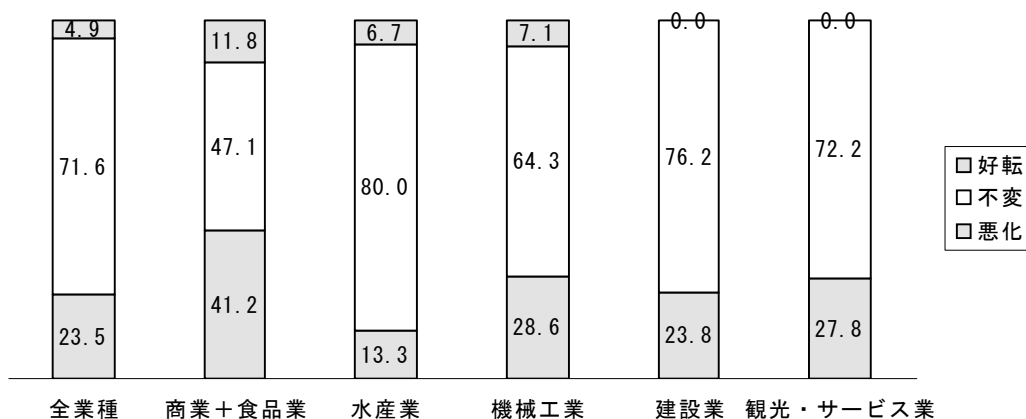


全業種平均 DI 値 $\Delta 30.2$ [今期の売上高・生産高（前年同期比 $\Delta 24.4$ ）より 5.8 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 24 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 $\Delta 18.6$ [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 18.6$ ）と横ばいの見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス 入 ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	$\Delta 27.6$	$\Delta 47.1$	$\Delta 6.7$	$\Delta 35.7$	$\Delta 28.6$	$\Delta 20.0$
	来期見通し	$\Delta 31.4$	$\Delta 47.1$	$\Delta 20.0$	$\Delta 28.6$	$\Delta 19.0$	$\Delta 42.1$
売上 D・I	今期実績	$\Delta 24.4$	$\Delta 37.5$	$\Delta 26.7$	$\Delta 14.3$	$\Delta 28.6$	$\Delta 15.0$
	来期見通し	$\Delta 30.2$	$\Delta 35.3$	$\Delta 20.0$	$\Delta 35.7$	$\Delta 14.3$	$\Delta 47.4$
在庫 D・I	今期実績	$\Delta 9.4$	$\Delta 0.0$	$\Delta 20.0$	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	$\Delta 34.5$	$\Delta 52.9$	$\Delta 33.3$	$\Delta 28.6$	$\Delta 38.1$	$\Delta 20.0$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	$\Delta 18.6$	$\Delta 11.8$	$\Delta 13.3$	$\Delta 35.7$	$\Delta 9.5$	$\Delta 26.3$
	来期見通し	$\Delta 18.6$	$\Delta 29.4$	$\Delta 6.7$	$\Delta 21.4$	$\Delta 23.8$	$\Delta 27.8$
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	$\Delta 9.1$	0.0	$\Delta 14.3$	0.0	$\Delta 9.5$	$\Delta 18.8$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	$\Delta 8.3$	$\Delta 15.4$	7.1	$\Delta 20.0$	$\Delta 5.0$	$\Delta 13.3$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。